

# 小児がんランタン揚げ啓発

9月の世界小児がん啓発月間に合わせ、小児がんに理解を深めるイベント「スカイランタン キャンドルナイト」が9月7日、仙台市若林区のアクアイグニス仙台で開かれる。主催するNPO法人アンドブライツ（仙台市）が参加者を募集している。イベントは屋外で実施。参加者に絵やメッセージを書いてもらい、LED（発光ダイオード）電球をともした30センチ四方、高さ約40センチのスカイランタン100

## 仙台・来月7日イベント

個を口没後、空に掲げる。

約200本のろうそくを会場に並べ、小児がんにちなんだクイズラリーや仙台市のバイオリン奏者らによる音楽ステージもある。

アンドブライツ代表理事の千葉友里さん（41）＝富谷市＝は「気軽に足を運んでもらって、治療法の確立していない病気があることや、闘病している子どもと

もと家族がいることを多くの人に知ってもらいたい」と話す。

午後5時から。入場無料。スカイランタンを掲げる場合は参加費1個2000円と事前の申し込みが必要。8月末までに専用のウェブサイトから申し込む。100組まで。応募多数の場合は抽選となる。連絡先は電子メール [info@andbright.org](mailto:info@andbright.org)

クイズやステージ、参加者募集



申し込みの  
QRコード  
参加者募集  
QRコード

# 宮城沿岸 想定域立地の施設

## 津波に備え知恵絞る

宮城県が公表する最大級の津波浸水想定を地図に落とし込み、細かく分析すると600以上の教育や福祉、観光関連の施設が浸水域に位置していた。自力で避難することが難しい災害弱者や観光客の安全をどう確保したらいいのか。東日本大震災の経験を基に知恵を絞る施設を取材した。

(1面に関連記事)

### 教育 防災マップ作成 福祉 垂直避難基本に 観光 道路に誘導着色

震災の津波で浸水した石巻市大街道小では昨年度、4年生(当時)が総合学習で学区内の防災マップを作成した。想定される津波の高さや津波注意報などの発表時に目指す避難ビル、交通量が多い道路を書き込み、身近な危険を下級生にも分かるように工夫した。

「くろい水が洗たくきのようにつずをまいて来た」と地

域の人から聞いた震災の証言も盛り込んだ。松本弓直さん(10)は「できるだけ高い所に避難しないといけないことが分かった。初めて見る人にも伝わるようにした」と説明する。

震災から13年余りが過ぎ、小学生は全員が震災後の生まれだ。渡辺幸子教諭(54)は「当時を知らない子どもが『わがこと』と捉えて防災に向き合えることが大事。どう行動すれば助かるかを考えられる力を育みたい」と意義を強調する。

#### 上階で備蓄

岩沼市の社会福祉法人ライフケア赤井江は、沿岸部にあった老人ホームなどが津波で全壊した。高齢者が入居する施設を内陸部に建て直したが、県の想定では再び被災の恐れがある。津波注意報などが発表された場合は上階に移動する垂直避難を基本とする方針だ。

施設は鉄筋コンクリート造

大街道小の子どもたちが作成した防災マップ。学区内に潜む危険箇所や津波の時の避難先が明記されている。

4階。入居者の生活空間は2、3階とし、1階に調理場や事務所を配置した。浸水の恐れがない4階に予備の調理場や3日分の食料・飲料水を保管する防災倉庫を設ける。停電に備え、自家発電機4台も配備。一帯の浸水で孤立状態になっても利用できる。

法人の事務局長大村雄一さん(44)は「住み慣れた環境にとどまれば入居者の不安感を抑えられる。落ち着いて行動できるような訓練を重ねたい」と話す。

#### 車避難想定

観光客の避難誘導が重要課題となっているのは仙台市若林区の複合施設「アクアイグニス仙台」。来場者は年間約60万人に上り、ほとんどが車で訪れる。

市は観光客を含め「避難は徒歩が原則」(減災推進課)と呼びかけるが、施設の支配人平間雅孝さん(51)の見方は懐疑的だ。「津波と聞けば誰もが乗ってきた車で逃げる。混乱は避けられない」と懸念する。

そこで道路の「共通ベイント」というアイデアを考えた。沿岸に点在する施設と内陸部を結ぶ道路の一部を同じように着色し、避難方向を示す。「土地勘がない人や日本語が分からない外国人も逃げ道が分かる」

防災集団移転跡地を活用する17の事業者でつくる協議会で検討し、市に提案したいと考える。「来場者をスムーズに誘導できればスタッフも早く避難できる。震災の経験を踏まえて備えたい」と力を込める。